

## 組織目標評価報告書（令和5年度）

31

部局名： 生殖補助医療技術教育研究センター

部局長名： 菅 誠治

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
①社会と学生のニーズに沿った教育プログラムを提供するために、実習内容を含めて教育内容を確認し、必要に応じて見直す。 ②特別コース履修生に対する適切なキャリア支援を行うために、進路指導が適切に行われているかを検証し、必要に応じて見直す。 ③国内外との教育機関との連携を強化するために、生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会や国外機関との教育プログラムに関する打合せ等を開催し、生殖補助医療技術教育プログラムの国内外普及に取り組むとともに、その充実を図る。 ④国内外の協力教員の活用・連携に努める。	(3-1) (7-1)	①授業評価アンケートなどを参考にプログラムの教育内容および実習内容を見直し、より効果的プログラムとなるよう努めた。 ②コンプライアンス教育、アカデミックキャリア支援などの充実を図るとともに、学生の志望に合う進路指導を行った。 ③生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会を主催し、今年度新たに山梨大学の加入を得て、本教育プログラムの普及および充実に向け、具体的なカリキュラム内容の検討調査を行うなどに取り組むことを合意した。 ④県内外の生殖補助医療機関およびアカデミアと連携し、学生の特別コース教育及びリカレント教育を実施した。また、国内外の協力教員にお願いしてリカレント教育を含むセミナー・教育を2回実施した。欧州で活発に生殖補助医療に関する教育を展開しているスペイン・ムルシア大学とEUエラスムス+の支援を受けて、教員各1名の交換交流を行い、相互の大学院生を対象にセミナーを実施した。また、共同修士課程構築に向けて準備を始めることで合意し、我が国の国際展開力強化事業等への応募する方向で準備を開始することとなっている。
<b>②研究領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
①生殖補助医療技術に関する研究成果の公表に努める。 ②国際共同研究を推進するとともに、国際交流の活性化を図る。 ③生殖補助医療技術教育に関する研究について積極的に取り組む。		①生殖補助医療技術に関する研究成果を国内外学会で発表し、査読付き論文(4編)として公表した。 ②生殖補助医療を国際的に展開するIVIと深い関係にあるスペインのムルシア大学獣医学部と学生・研究員の交換(受入1名および派遣2名)や研究面(国際共著1編の公表)での連携を強化し、新たな共同研究プロジェクトの打ち合わせのために教員の相互訪問を実施した(各1名)。 ③生殖補助医療技術教育に必要な実習用機器の大幅な更新に関する検討を行い、来年度予算を有効活用して実施する計画を立てるなど、関連研究推進のための環境整備を行うとともに、科研費等外部資金の獲得に向けた申請に積極的に取り組んだ。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
①生殖補助医療技術者向けリカレント教育の充実を図る。		①生殖補助医療に欠かせない基礎技術に関するハンズオンセミナーを実施するなど、リカレント教育の充実に取り組んだが、今年度の受講者数が少なく、大幅に見直すこととした。
<b>④管理運営領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
①関係部局の安全衛生委員会と協力し、安全衛生の周知徹底を図る。 ②運営委員会および学部・大学院の特別コース等でコンプライアンス遵守の周知徹底と遵守意識向上を図る。		①農学部や医学部保健学科の安全衛生委員会と協力し、安全衛生の周知徹底を図った。 ②学部・大学院の特別コース等のコースワークの中でコンプライアンス遵守について取り上げるなど、周知徹底と遵守意識向上を図った。
<b>⑤センター・機構等業務</b>	関連する 中期計画の番号	<b>センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を実施するとともに、内容見直し・改善を継続的に実施する。 ②受講者アンケートを実施し、リカレント教育内容の充実を図る。 ③国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進する。生殖補助医療技術教育研究カリキュラム標準化懇談会を事務的にサポートする。 ④事務業務の見直し・システム化を推進する。		①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を実施するとともに、授業内容や実習内容の見直し・改善を継続的に実施した。 ②受講者アンケートに基づくリカレント教育内容の充実を図ったが、今年度の受講生が少なく、大幅な見直しが迫られた。 ③本学に多く進学する高校に積極的に出前授業をWeb・対面で実施した。毎年、農学部や医学部保健学科の新入生の中に受講して志望した学生がおり、着実に成果を出している。生殖補助医療技術教育研究カリキュラム標準化懇談会を主催するとともに事務的にサポートすることで、またリカレント教育や同懇談会での活動を通して、国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進した。 ⑤ルーチンの業務作業のシステム化を推進するとともに見直しを行うことで、効率よく事業を推進できる体制になっていきおり、引き続き改善を進める。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

**(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況**

改善を要する点	
対応状況	